

白河学フィールドワーク 8

修学遠足

平成22年1月31日

テーマ・・・・・・・・福島県の縄文時代 法正尻遺跡を学ぶ

目的地・・・・・・・・福島県文化財センター [まほろん](#)

「まほろん」指定文化財展

1月の終わりに遠足の目的地を決めあぐね、雪や寒気を気にせず学習出来る様、県文化財センター「まほろん」の法正尻遺跡展を訪れることとした。

参加者は3名のみであったが、皆、初体験のようである。「まほろん」に着き車を降りて入館前に竪穴式の復元住居に入ってみる。入り口から煙が出ている。暗闇の室内で学芸員のおじさんが見学者に説明中であった。なんとこの住居は法正尻遺跡の復元物であった。その土の床に作られた炉と土器の使用法についてとても分りやすく説明をしてもらった。

入館し、受付で法正尻展の見学を告げ、白河学の趣旨を説明すると学芸員の菅原さんが付いてくれて展示物全て説明してくれた。彼は好感の持てるハンサムで説明が押し付けがましくなく、笑顔が似合ういい男であった。そして我々に想像力を生まれ、縄文の福島県の空気と風景を味わうことが出来た。我が「ひよこ」隊にも好評である。

縄文の時代が見直されてきている昨今、県内にこのような重要な遺跡があったことを知らなかったに恥じる。郷土の歴史を学ぶ時、欠いてはならないものなのであろう。

県内の縄文の土器は新潟方面を中心とする馬高式（火焰式）、東北地方全般の大木式、関東中心の阿玉式の交差する大変貴重な地域なのであった。法正尻にはどのデザインも出土し、重要なのだ。つまり、この各方面と常に交流、影響しあって暮らしていたことが分る。そして法正尻遺跡が磐梯山山麓丘陵地のすこし高い所にあったことも学びのポイントであった。

白河学研究会も「まほろん」と親密になって、交流し、有効に地域にある文化財センターを利用したいと思った。